

提出期限：令和7年3月21日(金)

令和 7年 3月 21日

山形大学「つなぐちから。」 社会共創活動推進プロジェクト
実施報告書

報告者名	阿部 字洋	
団体名および構成員 ※団体で活動を行った場合のみ記載 (欄が足りない場合は行を追加して記入してください。)	団体名 大黒森プロジェクト 古文書部 (ボランティア団体)	
	氏名	所属
	阿部字洋	山形大学 学術研究院 学士課程基盤教育院
	保科文俊	寒河江
	大黒森プロジェクト古文書部	西川町
	ほか	
活動名	西川町本道寺地区宿坊資料を未来につなぐ	
連携して活動を行った プラットフォーム加盟機関名	西川町	
活動報告	≪活動内容≫ 本道寺地区は旧来、出羽三山参拝の宿坊として栄え、修験道に関連した地域である。現在その地域は宿坊数も減少し軒も残っていない。一方で、その宿坊に残された資料は豊富である。近年家屋の解体と共に門外不出の資料が表に出るようになったものの、その資料の取り扱いに関して地域住民は手に余っていた。そのため、本道寺の研究をしている保科氏が音頭をとり、調査整理の技術を持った有志を募って整理をはじめた。地域活動や地域資料の保全を学びたい学生を募り調査会の実施を考えている。【資料が豊富な本道寺】と【資料調査のスタートアップを望む学生】【若手講師の実践の場(FD)】をマッチングし、本道寺地区住民は歴史の探究やよそものとの交流、学生は自身の新しい視点の創出や地域問題などの現状を把握、実践活動の手法の習得を目指す。 ≪実施した効果≫ 【資料が豊富な本道寺(研究)】と【資料調査のスタートアップを望む学生(教育)】【若手講師の実践の場(FD)】という活動においては、研究とFDは実施出来た。本道寺地区へのアクセスは車のみ、広報活動を出来なかったにも関わらず、のべ28名の調査参加者。また見学者のべ10名ほどの参加があった。報告会では本道寺地区11世帯に対して、参加者19名で想定の倍の参加を頂いた。報告会において、住民の方々より感謝の言葉と、内容に関する質疑が盛んに出てくるなどし、今後の継続した研究、活動を期待された。報告会の終了後もさまざまな議論がつづけられ想定終了時間を過ぎるなど盛会に会を閉じた。	

(裏面あり)

実施スケジュール	≪スケジュール≫ 6月1日 6月2日 7月20日 7月21日 8月31日 9月1日 11月17日 12月16日 8日間のべ28名が参加。 3月15日 成果報告会。19名の参加。					
支援金の用途報告	合計 98,619 円					
	(内訳)	(品名・使途 他)	(数)	×	(単価)	= (金額)
	茶箱 (送料込)	資料収納	2	×		= 41300円
	記録媒体 (HDD、SD)	地域、カレッジなどのデータ共有	9	×		= 46292円
	消耗品	資料整理用		×		= 11027円
				×		= 円
次年度の計画について	小さな地域単位での連携ではあるが大学に対する期待や、今後の学生の受入に關しての提案などを頂いた。次年度は引き続き指導者側はボランティアな活動が続けながら、今年度実施までは行かなかった、学生の学修に結びつけることのできるような合宿を想定している。この活動の話を学生にしてみると、参加したい！との意欲的な意見と共に、足があれば、、、と意見をもらった。そのため、学生が地域で学び、地域を伝える（地域単位として）ミクロな環境の中で地域連携教育に結びつけることが出来ればと考えている。教育、研究、地域貢献の共創トライアングルができ、地域での学びと大学での学びの好循環をうみたい。					
本事業へのご意見・要望	本活動への補助をありがとうございました。おかげさまで、地域の基礎となるような資料の調査、保全を進めることが出来ました。また、継続してご支援頂ければ幸いです。日本全体が疲弊している中で末端の地域では村落の維持も厳しくなっているところも出てきています。ただ、そのような地域でも幸福に生活している人々があり、その幸福の価値観はその地域でしか知り得ることが出来ません。地域で活動をすると価値観の相違を知ることも出来ます。引き続き事業を実施頂ければと思います。					
活動に関するHPや情報がございましたら、URLの添付をお願いいたします。	とくになし					

Ⅰ この報告書はA4版表裏Ⅰ枚以内で作成の上、メールに添付して提出してください。

問い合わせ先：山形大学総務部総務課社会共創推進事務室
 TEL：023-628-4615 MAIL：yu-shakaikyousou@jm.kj.yamagata-u.ac.jp